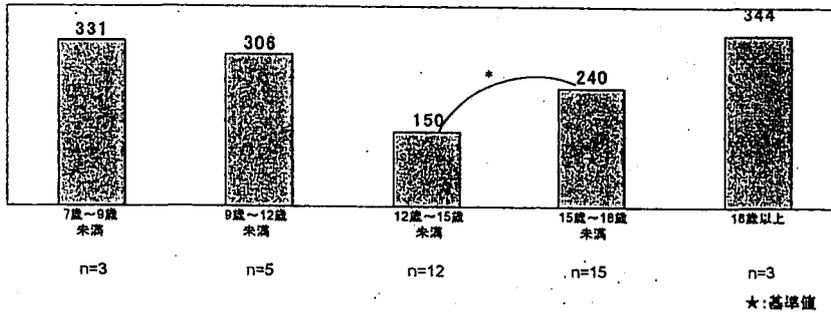


【子どもの状態等編】結果(情短)①

表P36

年齢別子ども一人あたりケア時間／日
(情緒障害児短期治療施設)

単位:分



・「12歳~15歳未満」が子ども一人あたりケア時間が最も短くなっている。
 ※「12歳~15歳未満」の方が、「15歳~18歳未満」に比べ、10%水準で子ども一人あたりケア時間が短くなっている(10%水準で有意傾向)。

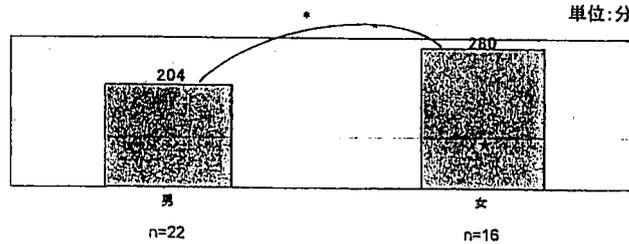
* ~10%水準で有意傾向

【子どもの状態等編】結果(情短)②

表P37

男女別子ども一人あたりケア時間／日
(情緒障害児短期治療施設)

単位:分



・「女児」の方が「男児」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている。
 ※「女児」の方が、「男児」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(10%水準で有意傾向)。

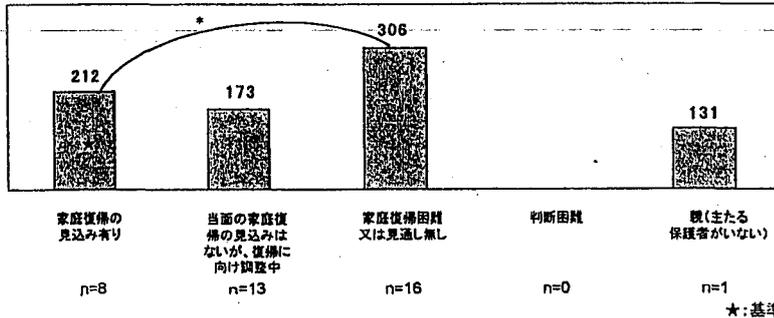
* ~10%水準で有意傾向

【子どもの状態等編】結果(情短)③

表P39

家庭復帰の見通し状況別子ども一人あたりケア時間/日
(情緒障害児短期治療施設)

単位:分



・「家庭復帰困難又は見通し無し」が、子ども一人あたりケア時間が最も長くなっている。
 ※「家庭復帰困難又は見通し無し」の方が、「家庭復帰の見込み有り」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(10%水準で有意傾向)。

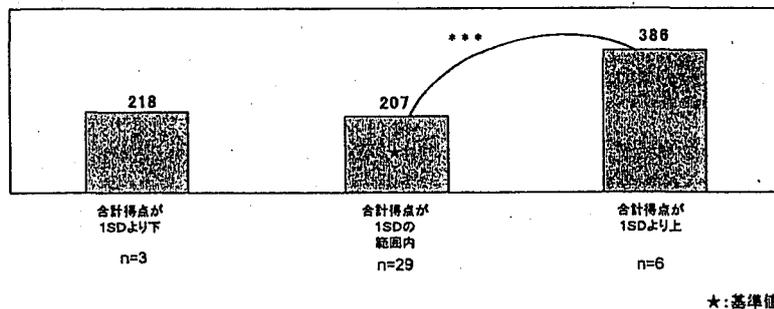
* ~10%水準で有意傾向

【子どもの状態等編】結果(情短)④

表P44

情緒・行動上の特徴のレベル別子ども一人あたりケア時間/日
(情緒障害児短期治療施設)

単位:分



・情緒・行動上の特徴の問題が多い方が、子ども一人あたりケア時間が高くなっている。
 ※情緒・行動上の特徴の合計得点が、「合計得点1SDより上」の方が、「1SDの範囲内」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(1%水準で有意)。

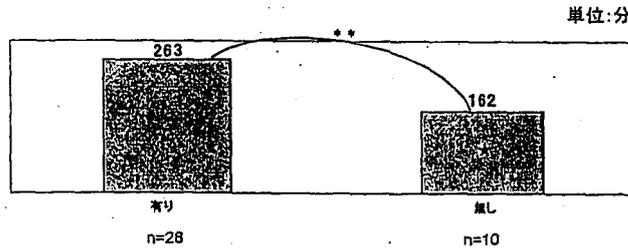
*** ~1%水準で有意

合計得点が1SDより下 ~ 標準より情緒・行動上の問題が少ない
 合計得点が1SDの範囲内 ~ 標準範囲
 合計得点が1SDより上 ~ 標準より情緒・行動上の問題が多い

【子どもの状態等編】結果(情短)⑤

表P46

家族への支援の有無別子ども一人あたりケア時間/日
(情緒障害児短期治療施設)



単位:分

★:基準値

・家族への支援「あり」の方が、子ども一人あたりケア時間が長くなっている。
※家族への支援「あり」の方が、「無し」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(5%水準で有意)。

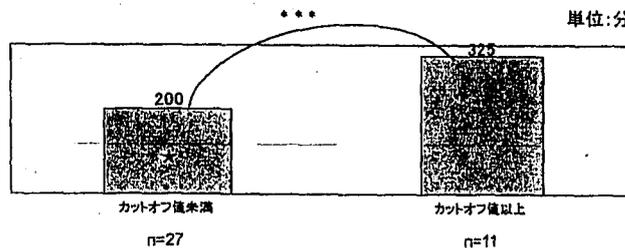
○家族への支援の有無
当該児童の家族等に対する面接や家庭訪問など継続的な家族支援の有無

** ~ 5%水準で有意

【子どもの状態等編】結果(情短)⑥

表P46

「不適切な養育を受けた子どもの行動チェックリスト(就学後児童)」
の評価レベル別子ども一人あたりケア時間/日
(情緒障害児短期治療施設)



単位:分

※カットオフ値を60.5とした

★:基準値

・専門的なケアを要する状態にある方が、子ども一人あたりケア時間が長くなっている。
※「カットオフ値以上」の方が、「カットオフ値未満」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(1%水準で有意)。

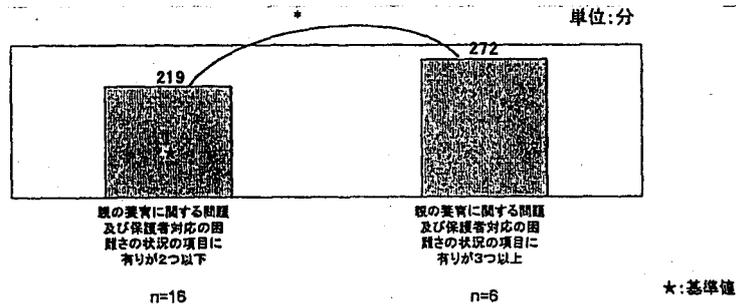
カットオフ値 ~ 専門的なケアを要するかどうかの基準値
カットオフ値以上 ~ 専門的なケアを要する状態

*** ~ 1%水準で有意

【子どもの状態等編】結果(自立)①

表P53

親の養育に関する問題及び保護者対応の困難さの状況別
子ども一人あたりケア時間／日(児童自立支援施設)



・親の養育に関する問題及び保護者対応の困難さがある方が、子ども一人あたりケア時間が長くなっている。

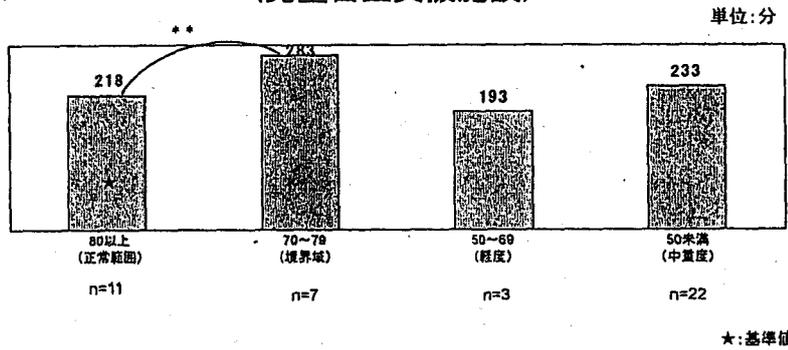
※「親の養育に関する問題及び保護者対応の困難さの状況の項目に有りが3つ以上」の方が、「親の養育に関する問題及び保護者対応の困難さの状況の項目に有りが2つ以下」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(10%水準で有意傾向)。

* ~10%水準で有意傾向

【子どもの状態等編】結果(自立)②

表P55

知能指数別子ども一人あたりケア時間／日
(児童自立支援施設)



・知能指数が「70~79(境界域)」が、子ども一人あたりケア時間が最も長くなっている。

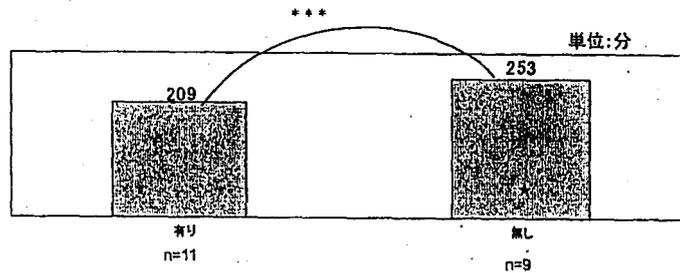
※知能指数が「70~79(境界域)」の方が、「80以上(正常範囲)」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(5%水準で有意)。

** ~5%水準で有意

【子どもの状態等編】結果(自立)③

表P56

定期的な通院の有無別子ども一人あたりケア時間/日
(児童自立支援施設)



★:基準値

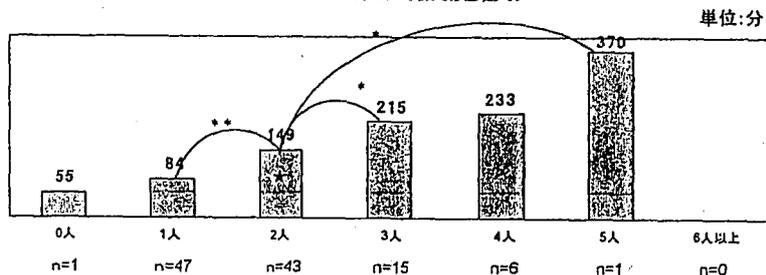
・定期的な通院「有り」の方が、子ども一人あたりケア時間が短くなっている。
※定期的な「有り」の方が、「無し」に比べ、子ども一人あたりケア時間が短くなっている(1%水準で有意)。

*** ~ 1%水準で有意

【母親の状態等編】結果(母子・世帯)①

表P60

世帯児童数別一世帯あたりケア時間/日
(母子生活支援施設)



★:基準値

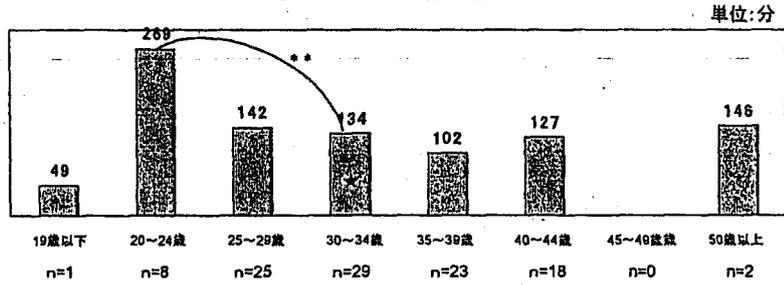
・子どもの数が増えるにつれて、一世帯あたりケア時間が長くなっている。
※子どもの数が「3人」及び「5人」の方が、「2人」に比べ、一世帯あたりケア時間が長くなっている(10%水準で有意傾向)。
※子どもの数が「1人」の方が、「2人」に比べ、一世帯あたりケア時間が短くなっている(5%水準で有意)。

** ~ 5%水準で有意 * ~ 10%水準で有意傾向

【母親の状態等編】結果(母子・世帯)②

表P61

母親の年齢階層別一世帯あたりケア時間/日
(母子生活支援施設)



★:基準値

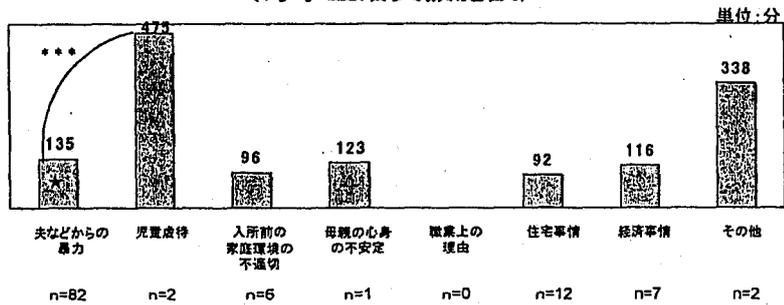
・母親の年齢が、「20~24歳」が最も一世帯あたりケア時間が長くなっている。
 ※母親の年齢が「20~24歳」の方が、「30~34歳」に比べ、一世帯あたりケア時間が長くなっている(5%水準で有意)。

** ~ 5%水準で有意

【母親の状態等編】結果(母子・世帯)③

表P63

主たる入所理由別一世帯あたりケア時間/日
(母子生活支援施設)



★:基準値

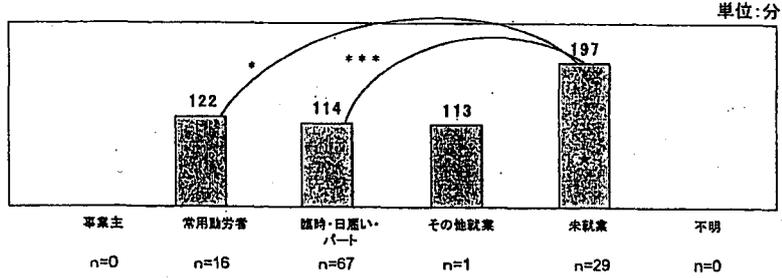
・主たる入所理由については、「児童虐待」が一世帯あたりケア時間が最も長くなっている。
 ※「児童虐待」の方が、「夫などからの暴力」に比べ、一世帯あたりケア時間が長くなっている(1%水準で有意)。

*** ~ 1%水準で有意

【母親の状態等編】結果(母子・世帯)④

表P64

母親の就業状況別一世帯あたりケア時間/日
(母子生活支援施設)



★:基準値

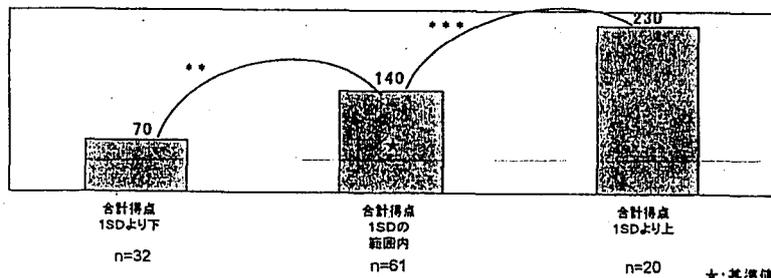
- ・母親の就業状況が、「就業」の方が、一世帯あたりケア時間が短くなっている。
- ※母親の就業状況が「臨時・日雇い・パート」の方が、「未就業」に比べ、一世帯あたりケア時間が短くなっている(1%水準で有意)。
- ※母親の就業状況が「常用勤労者」の方が、「未就業」に比べ、一世帯あたりケア時間が短くなっている(10%水準で有意傾向)。

*** ~ 1%水準で有意 * ~ 10%水準で有意傾向

【母親の状態等編】結果(母子・世帯)⑤

表P66

情緒・行動上の特徴(母親)のレベル別
一世帯あたりケア時間/日(母子生活支援施設)



★:基準値

- ・母親の情緒・行動上の問題が多いほど、一世帯あたりのケア時間が長くなっている。
- ※母親の情緒・行動上の特徴の合計得点が、「1SDより上」の方が、「1SDの範囲内」に比べ、一世帯あたりケア時間が長くなっている(1%水準で有意)。
- ※母親の情緒・行動上の特徴の合計得点が、「1SDより下」の方が、「1SDの範囲内」に比べ、一世帯あたりケア時間が短くなっている(5%水準で有意)。

*** ~ 1%水準で有意 ** ~ 5%水準で有意

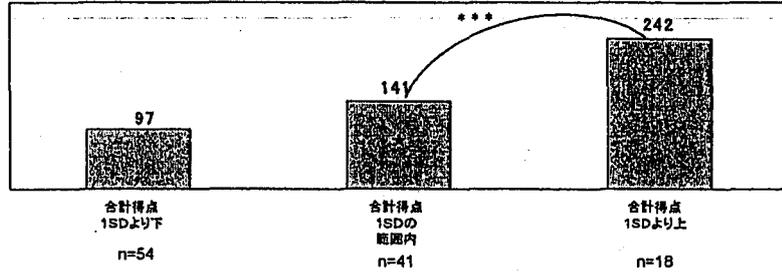
合計得点が1SDより下 ~ 標準より情緒・行動上の問題が少ない
合計得点が1SDの範囲内 ~ 標準範囲
合計得点が1SDより上 ~ 標準より情緒・行動上の問題が多い

【母親の状態等編】結果(母子・世帯)⑥

表P66

情緒・行動上の特徴(母子関係)のレベル別
一世帯あたりケア時間/日(母子生活支援施設)

単位:分



★:基準値

・母子関係の情緒・行動上の問題が多い方が、一世帯あたりのケア時間が長くなっている。
※母子関係についての、情緒・行動上の特徴の合計得点が、「1SDより上」の方が「1SDの範囲内」に比べ、一世帯あたりケア時間が長くなっている(1%水準で有意)。

合計得点が1SDより下 ~ 標準より情緒・行動上の問題が少ない
合計得点が1SDの範囲内 ~ 標準範囲
合計得点が1SDより上 ~ 標準より情緒・行動上の問題が多い

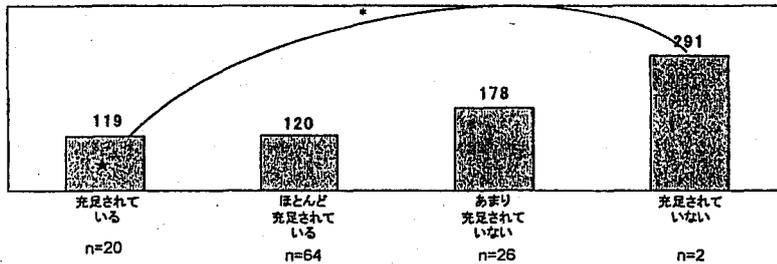
*** ~ 1%水準で有意

【母親の状態等編】結果(母子・世帯)⑦

表P67

ケアニーズの充足状況に関する評価別
一世帯あたりケア時間/日(母子生活支援施設)

単位:分



★:基準値

・ケアニーズ充足度が低いほど、一世帯あたりケア時間が長くなっている。
※ケアニーズが「充足されていない」の方が、「充足されている」に比べ、一世帯あたりケア時間が長くなっている(10%水準で有意傾向)。

○ケアニーズの充足状況

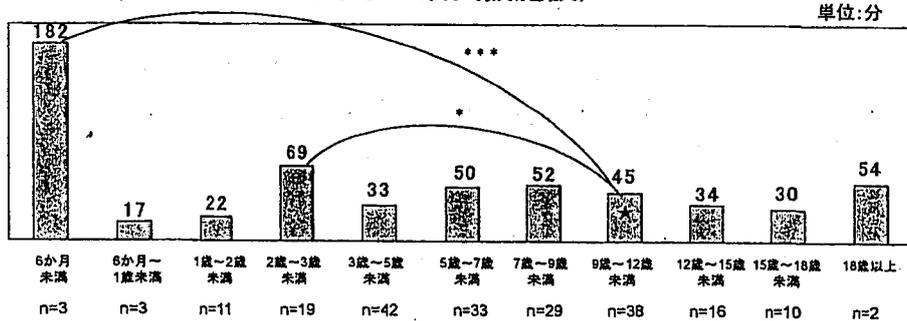
当該児童のケアニーズがどの程度充足されているのかについて、現状の職員数、施設状況等といったサービス提供体制上の制約がないものと仮定して、施設職員が評価するもの

* ~ 10%水準で有意傾向

【子ども状態等編】結果(母子・児童)①

表P68

子どもの年齢別子ども一人あたりケア時間/日
(母子生活支援施設)



★:基準値

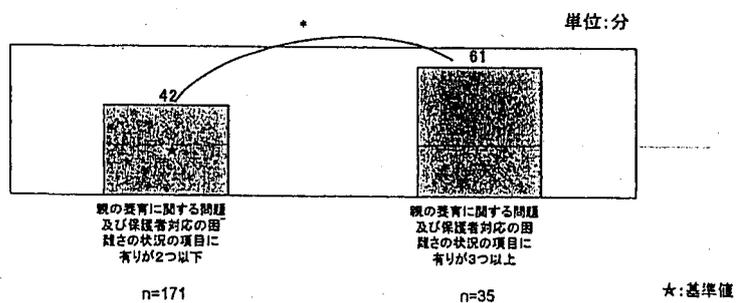
- ・「6か月未満」が、他の年齢層に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている。
- ※「6か月未満」の方が、「9歳～12歳未満」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(1%水準で有意)。
- ※「2歳～3歳未満」の方が、「9歳～12歳未満」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(10%水準で有意傾向)。

*** ~ 1%水準で有意 * ~ 10%水準で有意傾向

【子ども状態等編】結果(母子・児童)②

表P71

親の養育に関する問題及び保護者対応の困難さの状況別
子ども一人あたりケア時間/日(母子生活支援施設)



★:基準値

- ・親の養育に関する問題及び保護者対応の困難さがある方が、子ども一人あたりケア時間が長くなっている。
- ※「親の養育に関する問題及び保護者対応の困難さの状況の項目に有りが3つ以上」の方が、「親の養育に関する問題及び保護者対応の困難さの状況の項目に有りが2つ以下」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(10%水準で有意傾向)。

* ~ 10%水準で有意傾向

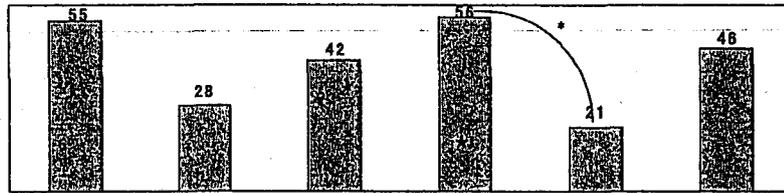
【子ども状態等編】結果(母子・児童)③

表P73

身体、発育の状態別(体重)子ども一人あたり

ケア時間/日(母子生活支援施設) ※就学前児童のみ

単位:分



3パーセンタイル未満 n=2
3~10パーセンタイル未満 n=7
10~25パーセンタイル未満 n=15
25~75パーセンタイル未満 n=42
75~90パーセンタイル未満 n=17
90パーセンタイル以上 n=9

★:基準値

※体重が、「75~90パーセンタイル以上(やや多い)」の方が、「25~75パーセンタイル(標準範囲)」に比べ、子ども一人あたりケア時間が短くなっている(10%水準で有意傾向)。

◆乳幼児身体発育曲線による分類(体重)
3パーセンタイル未満 ~ かなり少ない
3~10パーセンタイル未満 ~ とても少ない
10~25パーセンタイル未満 ~ やや少ない
25~75パーセンタイル未満 ~ 標準範囲
75~90パーセンタイル未満 ~ やや多い
90パーセンタイル以上 ~ とても多い

* ~ 10%水準で有意傾向

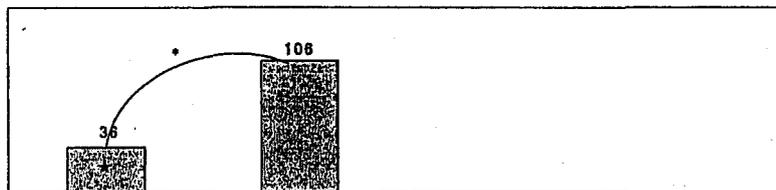
【子ども状態等編】結果(母子・児童)④

表P75

知能指数又は発達指数別

子ども一人あたりケア時間/日(母子生活支援施設)

単位:分



80以上(正常範囲) n=3
70~79(境界域) n=4
50~69(軽度) n=0
50未満(中重度) n=0

★:基準値

・知能指数又は発達指数が「70~79(境界域)」の方が、子ども一人あたりケア時間が長くなっている。

※知能指数又は発達指数が「70~79(境界域)」の方が、「80以上(正常範囲)」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(10%水準で有意傾向)。

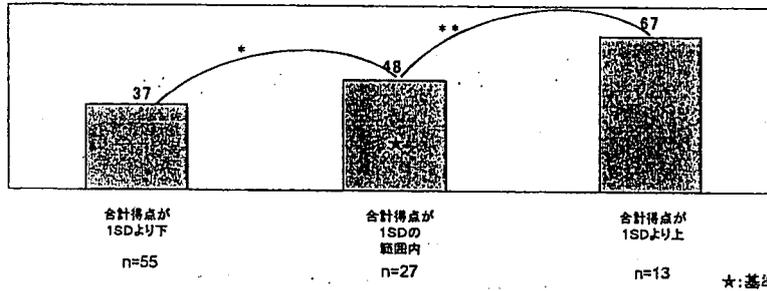
* ~ 10%水準で有意傾向

【子ども状態等編】結果(母子・児童)⑤

表P76

情緒・行動上の特徴(児童)のレベル別子ども一人あたり
ケア時間/日(就学後児童)(母子生活支援施設)

単位:分



・児童の情緒・行動上の問題が多いほど、子ども一人あたりケア時間が長くなっている。
 ※情緒・行動上の特徴(児童)の合計得点が、「1SDより上」の方が、「1SDの範囲内」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(5%水準で有意)。
 ※情緒・行動上の特徴(児童)の合計得点が、「1SDより下」の方が、「1SDの範囲内」に比べ、子ども一人あたりケア時間が短くなっている(10%水準で有意傾向)。

*** ~ 5%水準で有意 * ~ 10%水準で有意傾向

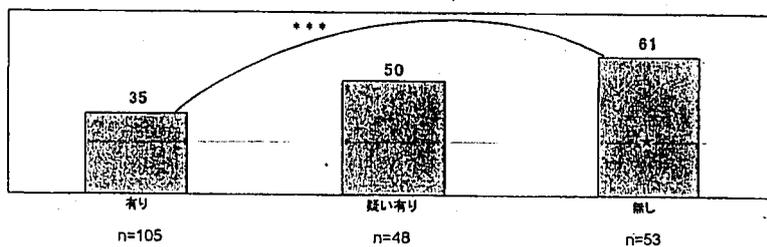
合計得点が1SDより下	~ 標準より情緒・行動上の問題が少ない
合計得点が1SDの範囲内	~ 標準範囲
合計得点が1SDより上	~ 標準より情緒・行動上の問題が多い

【子ども状態等編】結果(母子・児童)⑥

表P77

被虐待体験の有無(児童)別子ども一人あたりケア時間/日
(母子生活支援施設)

単位:分



☆:基準値

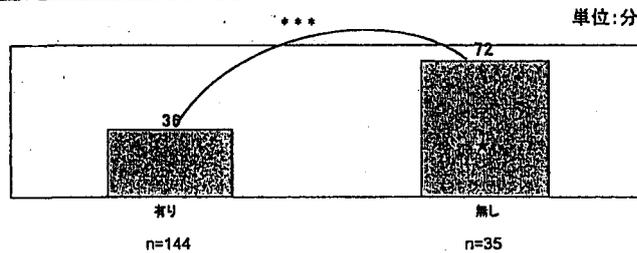
※被虐待体験「有り」の方が、「無し」に比べ、子ども一人あたりケア時間が短くなっている(1%水準で有意)。

*** ~ 1%水準で有意

【子ども状態等編】結果(母子・児童)⑦

表P78

家族への支援(児童)の有無別子ども一人あたり
ケア時間/日(母子生活支援施設)



★:基準値

※家族への支援「有り」の方が、「無し」に比べ、子ども一人あたりケア時間が短くなっている(1%水準で有意)。

○家族への支援の有無

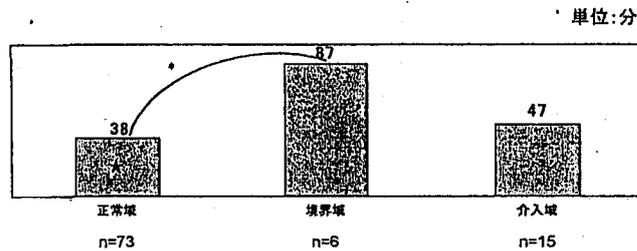
当該児童の家族等に対する面接や家庭訪問など継続的な
家族支援の有無

*** ~ 1%水準で有意

【子ども状態等編】結果(母子・児童)⑧

表P79

「養育問題のある子どもの行動チェックリスト(就学前児童)」の
評価レベル別子ども一人あたりケア時間/日(母子生活支援施設)



★:基準値

・「養育問題のある子どもの行動チェックリスト」の評価が「境界域(できるだけ特別なケアが必要)」が、子ども一人あたりケア時間が最も長くなっている。

※「境界域」の方が、「正常域」に比べ、子ども一人あたりケア時間が長くなっている(10%水準で有意傾向)。

境界域 ~ できるだけ特別なケアが必要
介入域 ~ 特別なケアが必要

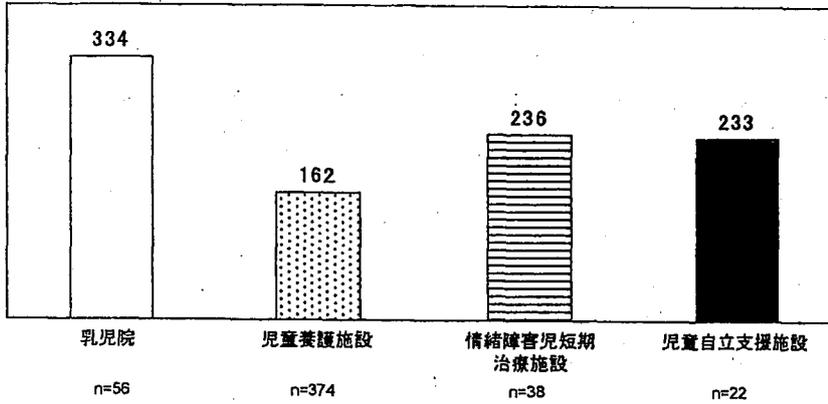
* ~ 10%水準で有意傾向

【施設環境編】結果①

表P83

施設種別別子ども一人あたりケア時間／日

単位:分



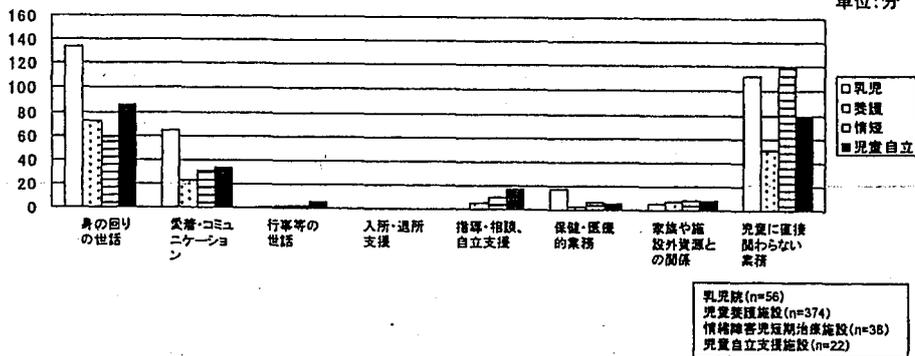
施設種別別による子ども一人あたりケア時間は、乳児院が最も多く、次いで情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設、児童養護施設の順に長くなっている。

【施設環境編】結果②

表P83

施設種別別業務分類別(大分類)
子ども一人あたりケア時間／日

単位:分



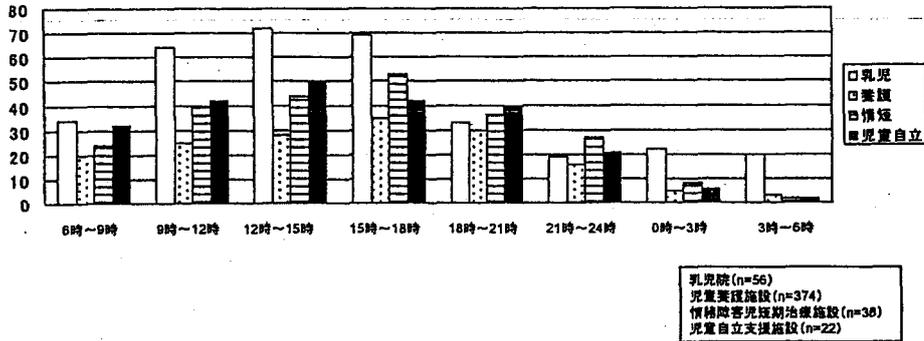
業務分類別にみると、どの施設種別でも「児童に直接関わらない業務」「身の回りの世話」が子ども一人あたりケア時間が長くなっている。
 「身の回りの世話」と「愛着・コミュニケーション」では、乳児院が最も長く、次いで児童自立支援施設、児童養護施設の順に長くなっている。
 「児童に直接関わらない業務」では、情緒障害児短期治療施設が最も長く、次いで乳児院、児童自立支援施設の順に長くなっている。

【施設環境編】結果③

表P83

施設種別別時間帯別子ども一人あたりケア時間

単位:分



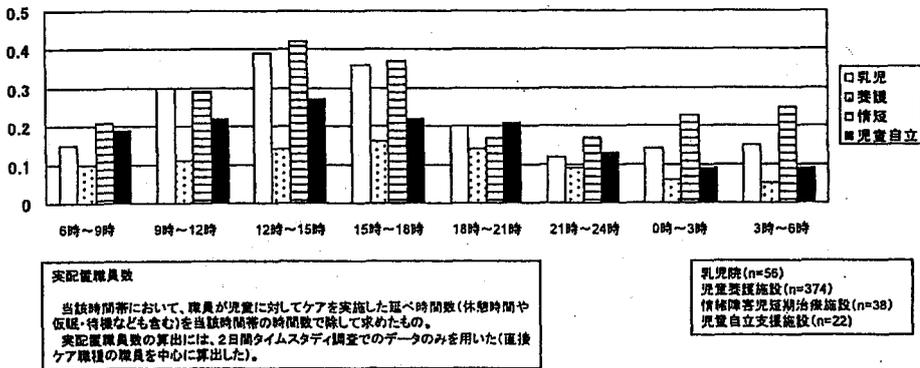
- 各施設種別で子ども一人あたりケア時間が最も長くなっている時間帯は、乳児院と児童自立支援施設では「12時~15時」、児童養護施設と情緒障害児短期治療施設では「15時~18時」となっている。
- 乳児院では、他の施設種別ではケア時間がほとんどない時間帯(「0時~3時」、「3時~6時」)においても一人あたりケア時間が20分程度ある。

【施設環境編】結果④

表P83

施設種別別時間帯別実配置職員数

単位:人



実配置職員数
当該時間帯において、職員が児童に対してケアを実施した延べ時間数(休憩時間や仮眠・待機なども含む)を当該時間帯の時間数で除して求めたもの。
実配置職員数の算出には、2日間タイムスタディ調査でのデータのみを用いた(直接ケア業務の職員を中心に算出した)。

乳児院 (n=56)
児童養護施設 (n=374)
情緒障害児短期治療施設 (n=38)
児童自立支援施設 (n=22)

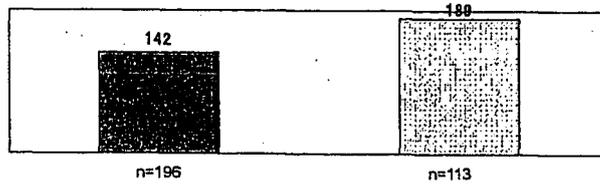
- 各施設種別で実配置職員数が最も多くなっている時間帯は、児童養護施設以外全ての施設種別で「12時~15時」が最も多く、児童養護施設では、「15時~18時」が最も多くなっている。

【施設環境編】結果⑤

表P85

ケア形態別子ども一人あたりケア時間／日
(児童養護施設)

単位:分



■ 大舎
□ 小舎・小規模

※職員配置の手厚い施設における比較

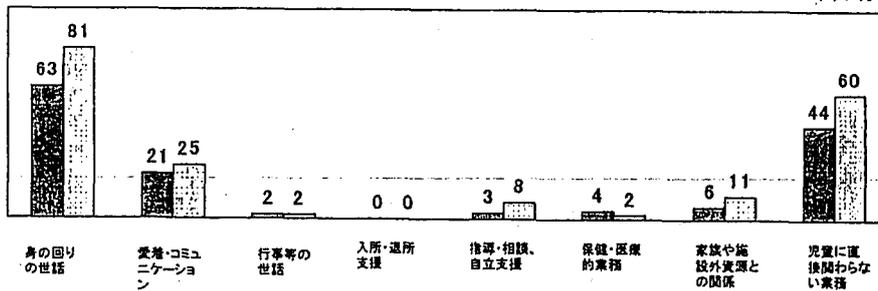
・「小舎・小規模」が189分、「大舎」が142分となっており、子ども一人あたり47分のケア時間の差が見られる。

【施設環境編】結果⑥

表P85

ケア形態別業務分類別(大分類)子ども一人あたりケア時間／日
(児童養護施設)

単位:分



■ 大舎
□ 小舎・小規模

・業務分類で見ると、「身の回りの世話」、「愛着・コミュニケーション」、「指導・相談、自立支援」「家族や施設外資源との関係」、「児童に直接関わらない業務」において、「小舎・小規模」の方が、「大舎」よりケア時間が長くなっている。

今後の分析のポイント(素案)

- 施設類型の見直しに関連するデータの分析
 - ・施設種別ごとの子どもの状態の違い
 - ・施設種別ごとのケア内容の違い(中分類レベルでの分析)
 - ・施設種別ごとの同じ状態の子どもへのケア内容の違い
- 子どもの状態とケアの内容・時間の違いについての分析
 - ・子どもの状態によるケア内容・時間の違いや、これらに関するグループインタビューとの一致・違い
- ケア形態の違いによるケアの違いについての分析
 - ・ケア形態ごとのケア内容の違い(中分類レベルでの分析)
 - ・ケア形態ごとの同じ状態の子どもへのケア内容の違い
- 適切な人員配置についての分析
 - ・子どもの状態に応じた適切なケアの提供量・ケア内容の分析・検討
- ケアの負担感に影響するアセスメント項目についての分析
 - ・ケアの負担感に影響するアセスメント項目についての分析
- 子ども一人あたりケア時間とアセスメント評価項目との相関
 - ・ケア時間に影響するアセスメント項目についての分析

等

今後考えられるクロス集計・分析(素案)

- 施設類型の見直しに関連するデータの分析
(例)
 - ・施設種別 × 子どもの状態(各アセスメント項目における割合の違い)
 - ・施設種別 × 業務分類(中分類レベルでの分析)
 - ・施設種別 × 業務分類(同じ状態の子どもで分析)
- 子どもの状態とケアの内容・時間の違いについての分析
 - ケア時間に影響するアセスメント項目を相関により抽出し、他のアセスメント項目とのクロス集計を行うことにより、より詳細な分析を行う
(例)
 - ・年齢 × 情緒行動上の特徴 等
 - ケア時間に影響するアセスメント項目とグループインタビューとの一致・違いについての分析
- ケア形態の違いによるケア内容・時間の違いの分析
 - ・ケア形態 × 業務分類(中分類レベルでの分析)
 - ・ケア形態 × 業務分類(同じ状態の子どもで分析)